

(高等学校用)

熊本県立八代農業高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標	
○教育目標	「高い志を持ち、社会に貢献できる魅力ある人材の育成」
○教育スローガン	「志高く、日々前進」
○教育方針	<p>(1) 落ち着いた生活を過ごすことのできる、健康な心身を育成する。</p> <p>(2) キャリア教育の推進により、生徒の進路目標を達成する。</p> <p>(3) わかる授業、主体的に考える力を育成する授業、個に応じた学習指導により、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。</p> <p>(4) 命を大切にす心、社会奉仕や公共の精神など豊かな心を醸成する。</p> <p>(5) 規律ある授業および集団生活を推進し、人権を尊重する心、共生の心を醸成する。</p> <p>(6) 他者への思いやりの心、他者の個性を受け入れる心を育成し、いじめや差別のない学校づくりを推進する。</p> <p>(7) 特別な支援を要する生徒に対しての全職員共通理解のもとでの取組により、計画的、組織的な適応指導を推進する。</p> <p>(8) 幼・保、小・中学校・地域との交流を促進し、学習成果を地域等の中で活かすことにより、地域及び地域産業における学校に対する理解をより一層促す。</p> <p>(9) ものづくりや命、自然との触れあいをとおした、喜びと感動のある実践教育を推進する。</p> <p>(10) 社会のグローバル化に対応できる人材育成を進める。</p>

2 本年度の重点目標	
(1)	すべての教育活動における、課題解決の推進と危機管理の徹底
(2)	魅力ある学科、学校に向けて教育活動の活性化の推進
(3)	限られた時間内でのより効率的・効果的な教育活動・校務（事務）処理の推進
(4)	地域での学習や学習成果の地域への発信による質の高い学習活動（経験）の展開
(5)	いじめ、差別のない学校づくり
(6)	掃除や整理整頓が行き届いたきれいな学校づくり

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	教育目標及び重点目標の周知・理解	全職員が共通認識として実践する。 生徒、保護者に教育目標を認知させる95%以上	職員会議や研修等で常時啓発する。 全校集会、PTA総会、広報誌、HP等を通じて啓発を図る。	B	教育目標、重点目標の周知をPTA総会、ホームページの活用等で啓発に取り組み、関係者に理解されていると回答した職員は77.8%であった。保護者では90.1%が理解していると回答したが教育活動の中学生等への周知については64.6%にとどまったが、前年度から5%向上した。日頃の学習活動、学校行事等をおして、中学生、生徒・保護者への認知度を上げることが課題である。
	生徒募集	募集定員の確保	各学科30名以上の志願者確保	中学校訪問や体験入学等などで各科の特色ある学習内容の広報の充実を図る。 HPを充実・活用し、各行事、学科毎にタイムリーに更新し情報発信を強化する。		C
学力向上	確かな学力の育成	基礎学力の向上	確認テストでの合格者が2回目まで8%増加	学習教材「一日一善」を活用した基礎学力の向上	C	1学期 1年 19.7% 2年 -0.4%、2学期 1年 9.3% 2年 0.3%の合格率増減となった。生徒の実態に合わせた目標設定と評価方法の改善、学年全体で取り組むことを再度確認したい。

		知的な好奇心の喚起	学ぶ楽しさや興味関心が高まる。授業の展開や学習評価の信頼性等の向上	研究授業に全員が1回以上実施または参加する。指導と評価の一体化を目指し、学期毎に成績教科会を実施し、課題を明らかにする。授業評価も年2回実施し、授業改善につなげる。	B	研究授業は年間を通じて各教科・学科で実施した。参加者も多く、工夫を凝らした授業実践が行われた。成績教科会も学期ごとに行われ、授業評価も2回実施した。授業者ができていないと思うことがアンケートにも反映され、授業の見直しに役立つ。
			課題研究を中心とする主体的に学ぶ、実践する授業の展開	総合的な学習の時間や課題研究を中心に全教科で能動的な学習を推進。仮説、検証、振り返りの一連の学習活動の浸透。学科間での課題研究の情報共有をする。	A	各学科とも課題研究の発表まで実施できている。今後も継続・発展させていく。また新教育課程への対応・研究が求められる。
キャリア教育(進路指導)	組織的な進路指導	計画的な進路指導	進路目標達成に向けた個別指導。基礎学力診断テストD3の-10%	教務部と連携した基礎学力定着の取り組み。基礎学力診断テストや「登竜門」の活用と振り返り学習	B	基礎学力定着のための学習に熱心に取り組む生徒が増えている。基礎学力診断テストD3の生徒が1年生は-5.5%、2年生は-6.2%であった。登竜門の改訂が進み内容が充実した。
		進路意識の向上	個人面談の実施。総合的な学習の時間の活用。進路未定者5名以内	家庭との連携や個人面談、三者面談による生徒の進路希望の把握。「進路ナビ」の改訂見直し活用	B	「進路ナビ」の改訂が進み内容が充実した。進路未定者数は1年生は0名であるが、就職希望ではあるが地域も職種も未定という者が9名(12.1%)、進学希望で地域も職種も未定という者が10名(13.5%)と多い。2年生は進路未定者が2名である。
	勤労観・職業観の育成	自己実現への意欲向上。キャリア教育の充実。個々の適性に合わせた進路選択	外部講師による進路講話の2回以上実施。学習環境の整備と情報提供の充実	職員による講話や外部講師による進路ガイダンスを実施。進路資料の充実と資料閲覧室の活用促進	B	外部講師による講話は生徒への刺激となっている。地元就労促進のための取り組みも外部機関との協力の下進んでいる。資料閲覧室の活用促進については、十分に活用している生徒と、そうでない生徒との差が大きい。
生徒指導	規範意識の高揚	校則の遵守と基本的生活習慣の確立	挨拶や時間、整容、正しい言葉遣い、社会ルールなどの遵守。特別指導件数の20%改善	登校指導やHR、授業などでの規範意識を育む指導や全校集会での道徳講話及び、交通教室の開催	C	遅刻者数週平均20名(目標21名)、整容検査合格100%クラス7(目標10)、二重ロック100%達成1回(目標4)、特別指導件数60%改善。
		生徒指導方針の共有	生徒指導方針に則った指導の実施。学校評価アンケート2.93以上	職員研修等による生徒指導方針の周知と職員間の連携	B	学校評価アンケート3.0ポイント。教職員間のコミュニケーションの機会が減ってきていることが課題である。
	中退者対策	学校生活への適応	学校生活満足率、全般・交友90%、自尊感情65%以上	人間関係スキルアップトレーニングの実施。宿泊研修の実施	B	学校生活満足率、全般83.8%、交友91%、自尊感情67.1%であった。生徒の不満足内容の把握、生徒に活躍の場を与えることが必要。
細やかな指導の確立		個々の生徒の実態把握	QUTテスト、Σ検査、いじめアンケート、自己肯定感アンケート等の活用。面談週間、新たな絆をつくる面談の実施	B	各取り組みを確実に実施し、成果を得ている。情報を集約、横断的に利用することが必要。	
	部活動の活性化	意欲的な活動を通じた自己肯定感の高揚	生徒アンケート「部活動に入部し、積極的に活動している」の評価ポイント2.77以上	自主的・自発的な活動を支えるための環境づくりと事故やトラブルの未然防止の徹底。部活動の精選	C	評価ポイント2.65。生徒数減少のため、充実した活動が難しい。また「部活顧問が毎日活動に参加している」に対して評価ポイント2.66という低い値になっていることも関係していると思われる。

人権教育の推進	良人の認められる関係を築くための推進	人権意識の啓発	生徒や保護者、職員の人権意識の向上	外部研修各自2つ以上参加を推奨 P T A や関係機関と協力した校内研修の充実 人権教育講演会の実施	B	外部研修に各自二つ以上参加した。人権レポート作成、教育実践の交流等年間3回校内研修を実施し、人権感覚を磨いた。水俣病に関する人権教育講演会を実施した。
	体制と充実に資する研修の推進	教職員の実践的指導力の向上	L H R における人権教育の充実	推進委員会と各学年担当の連携強化による人権L H R の充実	B	指導案やワークシートを更に改善し、人権L H R を実施した。
	大切にする心を育む	他の生徒の自尊心の育成	自己実現に向けた意識向上と達成に向けた取り組み支援	他の部署と連携し、自尊心を高める授業を展開。SNSなどにまつわる人権問題についての認識を深める	B	人権意識の向上のため、生徒自身の体験をもとに人権作文に取り組ませた。講演やワークショップ、L H R 等を通してSNSなどにまつわる人権問題についての認識を深めた。
いじめの防止等	いじめの防止	年間指導計画の改善	年間指導計画を検証し見直す。学校評価アンケート3.5ポイント以上	いじめ防止対策委員会を経て、現状に即した具体的な活動計画を作成	A	学校評価アンケート3.6ポイント。年度末の委員会で現状に即した計画を作成する。
		未然防止に向けた日常的取組	日常の学校生活における未然防止の徹底	「いじめ防止基本方針」に沿った全教職員の共通理解と同一歩調での取組 ストレス対応プログラムに準じたL H R の公開授業実施	B	年度始めと11月に本校「いじめ防止基本方針」を確認する場を設けた。またストレス対応プログラムに準じた公開授業を実施した。
			学期、年度ごとの検証	取組状況を学期、年度ごとに検証し、次学期や次年度に活かす	B	学期ごとに検証をおこなわなければならないが、2学期末の検証は1月に実施せざるをえなかった。
			校内研修の実施	いじめアンケートやQ-U、シグマを活用した状況把握といじめ未然防止に向けた研修の実施。Q-Uに基づいた学級アセスメント会議の実施	A	研修は3回実施。アセスメント会議はのべ16回おこなった。
早期発見・早期対応	いじめに関する実態調査	いじめアンケート及び心のアンケートを活用した早期発見と迅速な対応 新たな絆をつくる面談の実施 いじめ匿名通報アプリに対する適切な対応	B	アンケートは4回、新たな絆をつくる面談は3回実施した。疑い事案29件(認知8件)を把握することができた。通報アプリに関係では3件に対応した。		
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	特色ある学校づくり	八農版防災型コミュニティスクールの充実	防災・避難所機能の強化 防災・復興教育の推進	学校運営協議会による防災マニュアルの見直し 地域との合同防災訓練の実施	B	地域と連携した防災(地震・津波)避難訓練を実施することができた。避難所運営マニュアルの作成ができた。避難所等利用に関する協定書並びに覚書の締結が終了した。
道徳教育	道徳性の涵養	全体計画に教壇と活動の推進	学校行事等を通して愛校心、愛郷心の高揚 自己肯定観の深化 道徳性を涵養するホームルーム活動や授業の展開	校内、校外において本校生としての自覚を育成する指導の充実 実学を通しての自覚と責任感の育成 学校生活への満足度や愛校心が高まる指導の展開 全校集会(定期)の実施	B	学校行事にしっかりと取り組むことができた。全校集会も毎月実施できた。全クラスでS S T を実施し、自己他者理解・自己肯定感の高揚につながった。さらなる継続的な取り組みが求められる。

特別支援教育	特別な支援を要する生徒への対応	組織的な支援の計画と実施の評価	個別の指導計画作成率100% 学びのUD化チェック表達成率100%	定例委員会の確実な実施 職員研修の実施と学期ごとのチェック表による評価の実施	C 特別支援教育推進委員会は毎回有意義なものとなっており、そのため個別の指導計画については、本校の基準において必要な生徒についてはほぼ全員作成されている。UD化においてはオリエンテーション等により理解を図ったが、学期ごとのチェック表による評価は実施できなかった。
環境教育	環境調和の推進 校内外の美化	環境保全活動の周知徹底 校内美化、地域ボランティア活動	環境保全活動の周知徹底 学校版ISOの達成率 校内美化の徹底 地域ボランティア活動の啓発	各科目での環境保全活動の実施 宣言項目の実行、確認 校内美化コンクールの実施 トイレの清掃強化 地域ボランティア活動の実施	B 校内美化コンクールやエコキャップ回収活動やゴミの分別指導を実施した。また環境美化便りを発行し、エコ活動を推進し、更に掃除の仕方なども紹介した。各職員室清掃活動も行い、日頃の業務の作業効率アップに貢献した。地域清掃ボランティアにも多くの生徒が参加し、継続した取組となっている。
保健管理	健康に関する指導体制整備	規則正しい生活の確立	保健だよりを通じた基本的な健康知識の周知徹底 各種健康意識の啓発	薬物乱用防止、性教育講演会の実施 保健便りの定期発行 保健授業の活性化 がん教育の実施	B 講演会は計画に基づいて実施され、生徒の意識も向上した。保健便りは定期的に発行し、生徒の興味がわくタイムリーな話題を提供した。
		保健相談の充実	保健環境部と教育相談・支援部との連携及び情報共有	毎月の来室者統計の担任配付と個別面談の実施	B 日々の来室者確認を担当と共有し各部と連携した取組ができた。をスクールカウンセラーとも連携し、必要に応じて相談し、対策を講じた。
安全管理	施設・設備の充実	施設、設備の安全強化 危機管理意識の向上	生徒、職員が安心して過ごせる学校づくり 不測の事態にすぐに対応できる学校づくり	学期毎に安全点検を実施 校舎内外の巡回を実施	B 定期的な安全点検を職員全員で行った。早期の危険箇所解消に大きく役立った。
専門教育	専門教育の充実	魅力ある学科づくり	農業クラブ、家庭クラブ活動の活性化 学習活動の積極的な発信 生徒の学習満足度の向上	各種競技会における成果を引き出す イベントへの積極的な参加 各学科HPブログの毎週更新 八農祭等で学習成果を地域へPR 各学科におけるアンケートの実施	B 農業クラブの鑑定競技で6名、平板測量競技において県大会で優秀な成績を収め、全国大会に出場。全国大会では、農業と園芸の分野で各2名が優秀賞を受賞した。ブログは定期的な更新ができた。八農祭や小学生との交流など各科、特色を活かした様々な取り組みで地域への発信をすることができた。
	高い専門性と職業観の育成	専門性向上の見える学習展開	全資格において合格率前年比より向上 専門性、職業観を高める学習活動の充実	資格取得指導の充実と生徒の意欲喚起 各学科における先進地視察や講師招聘授業の実施	B 資格取得においては、合格率が向上できた資格があった。各学科、先進地見学、講師招聘授業など専門性、職業観を高める学習活動を展開することができた。

4 学校関係者評価

○各部の取組は成果が上がっていると感じる。支援を要する生徒への体制と就労支援に取組んでもらいたい。
○学校は、進路指導にもよく取組んでいるが、就労後の定着指導も含めた相談体制を整える必要があるのではないかと。
○農業高校の役割の一つとして、就農者が増えてきている。生徒が減少している中、農場管理は大丈夫なのか。同窓会としても応援できることはしていきたい。
○校外活動、地域活動を盛んにしている中で、生徒募集になかなか直結していないので、中学校の先生方に、学校の魅力を伝えるツールがあるとよい。
○生徒のために先生方は頑張っていただいている。親も学校も子供のために一生懸命しているので、さらにいろんな場面でPTAと先生が関わりあう場面が必要である。
○学校の情報発信ができていない。PTA新聞等の活用も含め各家庭への情報発信が必要である。

5 総合評価

本年度の学校教育目標から6つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。

(1) すべての教育活動における、課題解決の推進と危機管理の徹底

教育目標及び重点目標の周知については、アンケートの結果、職員・保護者の評価は4段階中、3以上と高かった。しかし、生徒が3をやや下回った。更に、周知徹底を図る必要がある。継続した課題として示した定員の確保については、同窓会やPTAとも連携しPR活動に取り組んでいるが、昨年の志願者を確保できておらず、定員確保には至っていない。学校生活への適応指導についても多様な生徒が在籍する中、教育相談・支援部を中心に担任をサポートしながら、組織的な対応に取り組み、不適応の解消に向けた対応が進んだ。この他、研究授業や学期ごとの校内公開授業週間を実施、課題解決に向けた校内外での各種研修など、教職員一人ひとりのスキルアップにも取り組んだ。

生徒の学力向上と進路保障の面からも、全職員共通理解のもと指導に取り組んだ。学習指導面では、まだまだ十分な学力向上に至っていないので「UD化」を意識し、生徒自ら授業の見通しができ、自分の考えや意見が言え、主体的に学べるような授業展開を実践することで進路実現につなげていきたい。

危機管理については、学期毎に施設の安全点検を実施し、速やかに整備を行った。防火避難訓練と地域と連携した防災避難訓練とを行ったほか、薬物乱用防止講演会や性教育講演会の開催、登校指導を含めた交通安全指導にも取り組んだ。今後も危機管理を徹底させていきたい。

(2) 魅力ある学科、学校に向けて教育活動の活性化の推進

各学科とも関係機関と連携を図りながら専門講師の招聘を行うとともに、近隣の小中学校等との交流学习に取り組んだ。学校農業クラブ全国大会では、今年度も8名が出場し全競技で入賞を果たすことができた。また、学科の特色を活かした地域イベントや地域ボランティア活動等へも積極的に参加することができた。学校評価アンケートの保護者でも「学校の特色が地域などに周知されている」の問いへのプラス評価65%と昨年より5ポイント増となった。しかし、専門学習における校外活動は生徒の達成感も大きい、休日参加等で回数が多くなると生徒職員ともに負担感が大きくなる。学習内容の充実と発信のためイベントへの参加は重視しつつ、参加イベントのさらなる精選する必要もある。

(3) 限られた時間内でのより効率的・効果的な教育活動・校務（事務）処理の推進

校内ネットワークを活用した文書の共有化や文書のやり取り、デジタル写真を一括管理等の効率化が定着してきた。八農メールの活用で、職員・生徒・保護者に一斉に連絡することができ、職員の連絡に要する労力を削減できている。今年度、隔日朝会（月・水・金）にも取り組み、会議回数もできる限り減らし、必要な会議及び内容について、職員の意識向上につながっている。さらに各校務分掌・会議・研修の見直し、整理整頓の徹底を推進するなど、一層の効率化を進めていきたい。

(4) 地域での学習や学習成果の地域への発信による質の高い学習活動（経験）の展開

学校評価アンケートの保護者で「PTA新聞やホームページ等による保護者への情報提供は適切に行われている」の問いにプラス評価81%と、学校評価アンケートから、わずかずつではあるが生徒と保護者ともに評価が向上したことは本校の取組みについて、多くの方に御支援と御理解をいただいた結果と判断する。「体育大会や八農祭、修学旅行などの学校行事は充実したものになっている」の問いにプラス評価90%で、生徒たちの各行事での企画や運営、八農フェスタでの生き生きとした明るく積極的な姿から、日頃の活動を生徒・保護者にPRでき十分理解していただいた結果だと考える。また今年度オープンスクールを2回実施し、本校の教育活動を地域の方々に見ていただいた。参加人数を増加させる手立ての検討が必要である。

(5) いじめ、差別のない学校づくり

生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。学期毎のいじめアンケート調査やQUテスト、Σ検査のほか、面談週間の他に、新たなきずなを作る面談等を通して生徒やクラスの状況把握と生徒が自ら悩み等を伝えられる場面設定に努め、いじめの早期発見と早期対応につなげている。LHRやいじめ対策に関する職員研修も開催し、職員のスキルアップにも努めた。また、日々の登校指導や月毎の全校集会を行い、規範意識の醸成にも取り組んだ。しかし、学校評価アンケート調査の結果、いじめ等への組織的・計画的な取り組みに対し職員の評価はプラス評価91%前後と高かったが、生徒たちは61%前後と低い結果となった。

(6) 掃除や整理整頓が行き届いたきれいな学校づくり

安全点検は生徒からの危険箇所の確認も行い、挙げられた箇所についてはその都度対応した。環境委員による美化コンクールやゴミ分別指導では、日頃からの整理整頓を意識付けるきっかけとなっている。学校評価アンケートの掃除や整理整頓に関する問いでは、保護者はプラス評価が90%で3ポイント増、生徒73%で2ポイント増、職員は今年度「八農一斉クリーンアップ作戦」を実施し、全職員一斉に各職員室の整理整頓を行い、で76%と10ポイント増の結果となった。さらに生徒、職員ともに環境美化に対する意識を向上させるための取組を実施していく。

なお、自己評価総括表でC評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

次に挙げる本年度、十分には達成できなかった項目などの課題改善に重点的に取り組みたい。

- (1) 学力向上は、授業評価アンケート結果から、日頃の授業の工夫と積み重ねが重要である。支援が必要な生徒など多様な生徒が入学する中、授業のUD化を踏まえた「わかる授業」「もっと学びたい授業」の展開を更に心がけ確かな学力の定着を実施したい。普段の「学びなおし」の指導も含め、「わかったという達成感」と「学ぶ楽しさ」を育成し、『生徒が主体的に学ぶ』授業の展開を全ての教科で実践し、社会を生き抜く力を育てる教育の実践に取り組んでいく。そのために、授業研究に取り組み、教師の指導力向上に努めるとともに、オープンスクールや公開授業の充実を図る。これらの取組を確実に進路保障に繋げ、同窓会やPTAとの連携を図り、志願者数増加、定員確保に努めていく。
- (2) 本校生徒にも自尊感情や自己肯定感の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、コミュニケーション能力の低下などが見られる。今後も、生徒理解研修や教育面談等を通して生徒の実態を把握し、早期対応、早期解決に全職員で取り組む。農業のもつ教育力を活かした「生徒が安心して学校生活を送れる体制づくり」を実践する。生徒一人ひとりに向き合い、生徒に「命」を大切にする心を育て、いじめのない楽しい学校生活を送れるよう支援する。